

漢字に対して、全く興味も関心も示さない場合にはどうしたらよいか。

食欲のない場合には、食べさせないのがよい。食べたくなるまで食べさせるな。……と言われていますが、漢字に興味も関心も示さない場合は、漢字を教えないことです。

今、食べたくなくても、必ず食べたくなる時がくるように、漢字に今関心を示さなくても、必ず関心を示す時がきます。それまで、漢字学習を控えることです。

三歳から五歳ごろまでの幼児は、目に触れるもののすべてに、興味や関心をもって、うるさいほど質問をするものです。そうすることによって、幼児は知識を吸収し、成長を遂げるのです。だから、どんな子供でも、漢字に対して、いつまでも無関心でいるはずはないのです。

必ず関心を示す時期がくる。そう思って、あせらず時期を待たなければなりません。ただ、無理強いしたために、漢字嫌いになり、そのため、漢字に興味も関心も示さない、というのであれば、その責任は指

導者にあるのですから、指導者の考えを改めなければなりません。

幼児期の子供の頭は、働きたくて働きたくてうずうずしているのですから、よほど下手な与え方をしない限り、漢字に対しても興味をもつはずなのです。漢字を教えようという気持を捨てて、その子供の、最も興味を示す物事に関する言葉を表わす漢字を、子供の興味の対象に結びつけて、さり気なく提示していれば、ひとりでにこれを覚え、やがて漢字そのものにも関心をもつようになります。